

2016 年度(平成 28 年度)

**事業計画書**

(第 6 事業年度)

自 2016 年 1 月 1 日

至 2016 年 12 月 31 日

**公益社団法人企業メセナ協議会**

## Creative Archipelago(創造列島)の推進 ～コーディネート事業を中心に多彩な文化プロジェクトを展開～

本年度は、企業メセナを躍進させる取り組みとして、民間主導の「Creative Archipelago(創造列島)」を本格的にスタートさせる。これは、2016年度から2020年度までを計画期間として策定した中期経営計画に基づき、そのビジョンに掲げた「文化への集中投資により社会創造を推進する—すべての人が創造的になり、多様な資源を活かす Creative Archipelago(創造列島)の実現—」の初年度としての位置づけである。折しも当年秋にリオデジャネイロ・オリンピックが終了し、2020年の開催地である東京にフラッグが引き継がれた瞬間から日本では文化プログラムをスタートさせることとなっており、これを契機としたプロジェクトでもある。

昨今、各地でアートプロジェクトやアートフェスティバル等が開催され、内外の高い関心を集めているが、こうしたプロジェクトの成果として、地域資源の顕在化と再評価につながっている点が意義深い。全国各地の個性豊かな文化を発信し、そこに新たな価値を付与するアートプロジェクトを数多く展開することが2021年以降の地域創造、社会創造につながり、東北をはじめ各地で伝承されてきた民俗芸能や祭りも含めて、数々のアートフェスティバル等を通じた日本文化の発信と交流を促進したい。

そのために、メセナ専門機関として蓄積してきた知見とネットワークを駆使し、各社のメセナプログラムを充実させるべくコンサルティングに取り組み、複数社による共同メセナや、企業と文化機関、自治体等を結ぶ具体的なコーディネート事業を展開する。また現に進めているメセナ認定「This is MECENAT」と連動して各地の多彩なメセナ活動に光をあてるとともに、助成制度「2021Arts Fund」を活用し、テーマを設けたファンド形成とともに、企業や寄付者の想いをかたちにする目的ファンドの設立と運営にも注力していく。

あわせて近年、国際会議等を通じてネットワークを構築している東南アジア諸国の文化機関、企業等との連携を進め、「KMK ASEAN」の発足に向けたフォーラム等を継続し、日本の企業メセナの価値を伝えるとともに、多方向の文化交流を進めていくものである。

### 2016年度事業計画における重点施策

- ① Creative Archipelago(創造列島)のキックオフ、メセナ認定、2021Arts Fund、コーディネートの拡充
- ② 重点地域における具体的な文化プログラムの実施
- ③ 東南アジアにおけるKMK ASEANの推進
- ④ 高齢者による若手創造支援ファンドの導入、郷土芸能支援の拡大
- ⑤ アートNPO支援制度の導入

## 中期経営計画の骨子【計画期間:2016～2020年】

### 【ビジョン】

文化への集中投資により社会創造を推進する

—すべての人が創造的になり、多様な資源を活かす Creative Archipelago(創造列島)の実現—

### 【重点目標】

1. 創造経済の確立
2. 文化への集中投資の仕組みづくり
3. マルチステークホルダー・プロセスによる経営理念の再構築

### 【ビジョン達成のための基本戦略】

#### 1. Creative Archipelago(創造列島)の推進

⇒ 2016～2020年の間、全国で民間主導の文化プロジェクトを展開し、2021年以降の文化創造・社会創造につなげていく。

#### 2. コンパクト経済とクリエイティブIターンによる地域創造

⇒ 地域資源を活用し、コミュニティ形成とコンパクト経済の循環に創造的に参画する若手クリエイターのUターン、Iターンを支援する。

#### 3. 日本文化の発信と世界の多様な文化との双方向(多方向)交流の推進

⇒ 東北をはじめ、全国各地のアートフェスティバル等を通じた日本文化の発信と交流を促進、KMK アセアン発足に向けた調査・交流、世界文化フォーラム等を開催

#### 4. 少子高齢社会における社会創造モデルの提唱

⇒ 高齢者が次世代を応援するファンドの形成、新たなメセナプログラムの提案

#### 5. 文化による社会創造プラットフォームの確立

⇒ 企業とアートNPOの協働フォーラム等、内外の文化機関との連携でプロジェクト推進

**創造  
列島**  
Creative  
Archipelago

## 【強化すべき事業領域】

### 1. コーディネート、コンサルティングの充実

⇒ 民間の「アートプロジェクト・ネットワーク」を「共同メセナ」で支援（Creative Archipelago のモデル事業）、企業と自治体、アートセクターを結ぶコーディネートを担当。

⇒ 従来からメセナ活動に取り組んでいる企業に対するコンサルティング、新たなメセナプログラムの企画立案、具体的なプログラム運営の実務に携わる。

### 2. 2021 Arts Fund を中心とした助成事業の展開

⇒ コーディネート、コンサルティングと連動し、2021Arts Fund で寄付者の意志をかたちにする「目的ファンド」の設立と運営に取り組む。

⇒ 協議会としては、①地域コミュニティを活性化する「クリエイティブ I ターン」、②アート NPO の活動支援、③高齢者が若手アーティストを応援するファンドを設ける。

### 3. メセナ専門機関として幅広い調査を実施

⇒ 企業・企業財団のメセナ活動を把握するアンケートに加え、独自のデータ収集やヒアリング等の調査手法を交えて、公的予算を凌駕する日本の企業メセナの実態に迫る。

⇒ エリアを定めた文化資源の悉皆調査や、海外のメセナ動向調査、メセナのニーズ調査など、協議会が蓄積しているデータとネットワークを活かし、新たな提案に結びつける。

## 事業目標

メセナ専門機関としてコンサルティングを中心に事業を展開し  
文化振興プラットフォームの役割を担う

## 組織目標

毎年、正会員 4 社増、準会員 2 団体増で、2020 年に会員数 200 社・  
団体、個人会員 100 人を達成

## 財務目標

コーディネート事業の拡充とファンド運営により、財源の多様化  
(会費 54%：寄付金運営＋事業収入 46%) を目指す

# I. 事業計画

## 【調査・研究 | 認定・顕彰】

### 1-1. 調査・研究

世界に誇る日本の企業メセナの現状と可能性について、より詳細に調査する。メセナ活動それぞれの固有の価値を抽出し、企業メセナの多彩な価値を発信するとともに、各社のメセナ活動推進に資する情報の整備を行う。

#### ■より詳細で実態に迫るメセナ活動調査と、調査データの多面的活用

- 企業・企業財団が取り組むメセナ活動について現状と動向を把握すべく、「メセナ活動実態調査」では、調査対象の新規開拓とともに、過去回答企業の状況調査を行う。またアンケートとあわせて、他事業で収集している情報と、公開データおよび他機関の資料等を広く活用し、調査の精度を高めていく。メセナ活動費総額については、2020年に1,500億円規模を実現できるよう情報発信を強化し、その達成に寄与する。
- 協議会に蓄積されている調査データを多面的に活用、分析できるよう、業種や企業規模、地域等の観点から、すぐに使えるかたちで整備する。それにより、企業に対するコンサルティングを充実させ、外部機関等からのメセナ調査依頼に即応できるようにする。
- 調査結果についてはプレスリリースによる速報のほか、リーフレット『Mecenat Report 2016』としてコンパクトにまとめ、協議会の催しや外部での講演などで活用する。WEBでは英語サイトも含めてグラフ等を公開し、調査の成果を随時発信して情報へのアクセシビリティを高める。

#### ■多彩な調査・研究を展開、メセナ・アソシエイトによる研究の深化

- 調査・研究部会を中心として、会員企業のメセナ担当者が現在抱えている課題や関心事を掘り下げるとともに、認定・顕彰事業に寄せられる活動事例も含めて最新の動向を把握し、多様な企業メセナの価値を抽出していく。
- 今日のメセナが多面的で重要な社会価値の創造に貢献していることを把握し、いまのメセナ像がつかめる事例研究、イメージ形成につながるよう、多様な視点からの研究を進める。
- コーディネート、コンサルティングと連動させ、文化資源について幅広い調査を実施し、その活用の提案につなげていく。
- メセナに関心ある外部の若手研究者を迎えて事例研究を進めるべく、第3期のメセナ・アソシエイトを募集する。3人前後を目処に採択し、ライブラリー・ミーティングや調査研究部会への参加を踏まえて、独自のテーマ設定のもとメセナ事例の分析・研究を行う。研究の成果を報告会で発表するとともに、レポートを『事例研究報告書』として発行する。

## 企業+財団

総件数 3,000件以上

総額 956億2,697万円※

※アンケート調査によるデータのほか、企業財団の公開資料および協議会事業によって得られたデータ等を加えた額。

## 企業

活動総件数 2,928件

活動費総額 194億142万円

## 財団

活動総件数 693件

年間支出総額 645億9,540万円



調査報告会(2015/3/10)

### ■ 諸外国のメセナ状況の把握と国際比較

- 各国のメセナ動向について常に最新のデータを把握するため、海外の企業メセナ機関等に対して、定期的にメールでのヒアリング調査を行う。既存の調査資料等についても情報を収集・分析し、メセナの国際比較について概要資料を公開していく。
- 日本企業による海外でのメセナ活動についても、引き続き、各社へのアンケート調査を行うほか、各国の文化機関等へのヒアリングにより把握する。
- 近年の国際会議等で形成された人的ネットワークを活かし、東南アジアおよび欧州を中心に、現地でのヒアリング調査を行う。特に東南アジアでは「KMK ASEAN」の推進を目指し、調査とあわせて現地と東京でのフォーラムを企画、2016年度はジャカルタ、クアラルンプールおよびペナンを予定している。

### 1-2. 認定・顕彰

メセナの姿およびメセナが社会創造に果たしている役割を、活動事例から明らかにする。認定制度で多様なメセナ活動を幅広く顕在化させ、顕彰により社会の動向に先駆けている活動にフォーカスすることで、メセナの意義と重要性を広く社会に周知する。また、これらの制度により、メセナに取り組む企業・団体を励まし、一層の活動の充実に寄与する。

### ■ 「This is MECENAT」の認定件数の飛躍的増加、「Creative Archipelago(創造列島)」と連動

- 2014年度より導入したメセナ認定制度「This is MECENAT」の認知度を高め、2016年度の認定件数は300件を目指す(2015年度:122件)。会員のメセナ活動は、すべてThis is MECENATに登録されるよう促し、「Mマーク」の活用を勧めて活動のアピールに寄与する。また認定活動についての取材等を積極的に行い、会員との関係性をさらに深めていく。

- 会員以外の企業が行うメセナ活動についても、メセナの評価と活動の発信につながる点を強調し、TIM 登録につなげるとともに、新規の活動を掘り起こしてメセナの現状把握に努める。
- 2020 年東京オリンピック・パラリンピックを契機とし、2016 年より 4 年間にわたりキャンペーンを展開する「Creative Archipelago(創造列島)」については、公益性の観点から民間の文化活動を認定する仕組みであり、「This is MECENAT」との連動を検討する。

■多様なメセナを発掘し、情報収集と現場視察で、さまざまなストーリーを発信

- 「This is MECENAT」の認定活動から「メセナアワード」の対象活動を選考するうえで他薦機能を充実させるべく、認定活動についてはプログラム・オフィサーが情報収集と現場視察に努め、自薦・他薦にかかわらず優れたメセナ活動が顕彰されるよう、両制度の連動を強化する。
- 調査・研究事業と連携し、「This is MECENAT」登録後にアンケート調査への回答を促したり、調査回答企業に TIM 応募を呼びかけるなど、両事業で接点を持つ企業の実数を近づける。
- 個別のメセナ活動を可視化し顕彰する当事業の特徴を活かし、情報発信事業と連携して、日本の企業メセナの多様性を発信する。WEB でのアート&カルチャー掲載やメセナライターによる取材のほか、新しい切り口で、両事業の性質を活かした発信の可能性を探る。
- This is MECENAT／メセナアワード審査委員については、2 名が任期満了に伴い、社会的認知度が高く専門性に優れた委員を新たに選任する。



「This is MECENAT 2016」メセナマーク



メセナアワード 2015 贈呈式

[This is MECENAT／メセナアワード実施要領]

- This is MECENAT 2016 募集時期： 2016 年 3 月～5 月
- メセナアワード 2016 エントリー締切： 2016 年 5 月末
- 審査委員長： 原島 博（東京大学名誉教授）
- 審査委員： 伊東信宏（音楽学者、大阪大学大学院文学研究科教授）  
金沢百枝（美術史家、東海大学教授）  
中村陽一（立教大学 21 世紀社会デザイン研究科教授） \* 以上五十音順、敬称略  
尾崎元規（企業メセナ協議会理事長）
- \* 新任の審査委員を 2 名補充
- メセナアワード 2016 贈呈式： 11 月下旬予定

## 【交流】

「Creative Archipelago(創造列島)」を牽引すべく、さまざまなレベルの交流の場を設け、文化・芸術活動による社会創造に携わる組織や個人をつなぐネットワークを形成する。コーディネート、コンサルティングを通して、メセナ活動の飛躍に寄与する。Creative Archipelago の推進、震災復興支援を促進するため、「2021Arts Fund」の拡充をはかる。

### 2-1. メセナネットワーク

#### ■「Creative Archipelago(創造列島)」の実現を促す取り組み

- 2016 年から 2020 年にわたり、全国各地で多彩な文化活動が展開され、多方向の文化交流がなされるよう、「Creative Archipelago(創造列島)」を推進していく。協議会会員からなるプロジェクトチームを結成し、この間の企業メセナの推進に資する施策を検討し実行していく。
- 全国各地で、企業と文化機関やアートプロジェクトが協働できるよう、メセナ担当者とプロジェクトの担い手が集うフォーラムを開催する。また民間のアートプロジェクトのネットワークを形成し、複数社の共同メセナで支援する「創造列島プロジェクト」をモデル事業として実施する。さまざまなレベルの情報交換と議論の場を設け、企業と NPO の協働や、国や自治体との連携によるメセナ推進の可能性など、具体的な取り組みを進める。
- 東北被災地をはじめ、全国各地で開催されているアートフェスティバル等を通じた日本文化の発信と交流を促すため、GBFund や 2021Arts Fund で助成している活動から重点支援対象を選び、積極的な広報協力や支援者とのマッチングに取り組む。

#### ■「KMK ASEAN」発足に向け、東南アジア諸国の文化機関との連携強化

- 今後のビジネス展開が期待できる東南アジア諸国と、相互に文化面での理解と交流を促進すべく、企業、中間支援組織、文化機関等が集うプラットフォームとして「KMK ASEAN」を発足させることを目指し、継続的に事業を実施する。
- 調査事業と連携して、2016 年度はインドネシア、マレーシアのメセナに関する現地ヒアリングとフォーラムを実施し、東京でも各国からゲストを招いてのフォーラムを開催する。インドネシアはジャカルタ(3/7-12)で、マレーシアはクアラルンプールとペナン(8/22-29)を計画しており、東京でのフォーラムは、5月26・27日を予定している。なお本件は、国際交流基金アジアセンターからの助成を得て、実施するものである。
- 海外でのフォーラム実施にあたっては、事務局が日本の企業メセナを紹介するにとどまらず、会員企業のメセナ担当者にパネリストとして登壇いただいたり、ヒアリング調査に同行いただくなど、情報発信とネットワーク形成の契機となるよう設定する。



## ■メセナの現場の声を反映し、交流を深める会員ネットワーキング

- 会員相互の情報交換と交流、研鑽の場を提供すべく、会員ネットワーキンググループの主催で「新入会員ファーストミーティング」「会員ネットワーク勉強会」を行うとともに、「メセナ部活動」を推進する。すでに活発な活動を展開している「美術部」の他に、音楽事業やホール運営に携わるメセナ担当者が集う「音楽部」を発足させる。なお、会員以外でも同様の活動を行う企業には参加を呼びかけ、入会を促す契機とする。
- 定例の「賀詞交歓会」「会員交流会」においては、会員ネットワーキンググループの意見を仰ぎつつ企画立案し、各種会合に伴う講演会やメセナの現場を訪れるフィールド視察等についても会員の要望を反映しながら実施する。常に役立つ情報を提供し、会員相互のネットワーク形成に資するよう、多彩な機会や場を設けていく。

## 2-2. 相談・協力、コーディネート

### ■メセナ専門機関としてコンサルティング、コーディネート機能を強化

- 2020年に向けたメセナ拡充の機を捉えてコーディネート事業を強化し、多彩なメセナプログラムを実現する推進力となる。各社のメセナ活動の現状分析やニーズ調査、新たなプログラム提案、具体的なプロジェクトの運営等を手掛ける。
- メセナ専門機関として、四半世紀にわたり蓄積してきた調査データや活動事例、ノウハウとネットワークを活用し、企業からの幅広い相談に応じるほか、企業とパートナーシップを組みたいNPOや自治体等とのコーディネートを実現する。それにより、各地でメセナに取り組む企業の顕在化が進み、メセナおよび協議会の全国的なプレゼンス向上にも寄与する。
- 毎月の「メセナよろず相談日」を拡充し、会員をはじめ企業・企業財団、民間の文化団体、自治体等の相談に応じ、「Creative Archipelago」を具体的に推進する機会とする。
- 多彩なコーディネート事業を展開していくために、事務局スタッフがプログラム・オフィサーとしての調査力、企画提案力を高めるのはもちろんのこと、実務を推進していくうえでは外部のアートNPOやアートマネージャー等と協力してあたり、メセナのパートナー拡大、アートと社会のつなぎ手となる人材育成にも貢献していく。



瀬戸内アートクルーズ(2015/9/22-23)



第6回メセナ美術部(2015/9/4)

## ■「2021Arts Fund」と連動したコーディネート事業の展開

- 2020 年より先の未来に向け、文化による社会創造を促す「2021Arts Fund」は、特定の活動や目的のために寄付を促す仕組みであり、同制度をさまざまな文化振興策において活用するよう促す。特に、2016 年より全国各地で文化プログラムが展開されることから、地域の魅力を発信するための方策についてフォーラム等で議論を喚起するとともに、当ファンドを活用した地域の文化振興・メセナ推進をはかる。
- 各社のメセナプログラムとして「2021 Arts Fund」の中に目的ファンドを設け、協議会で運営するという手法を展開する。時限の助成プログラムや次世代育成のための寄付金運営、数年に一度開催するアートフェスティバルのための積立てなど、コンサルティングと連動した柔軟なファンド活用を提案していく。

## 2-3. 助成

### ■2021 Arts Fund(2021 芸術・文化による社会創造ファンド)の飛躍的拡充

- 寄付者の意向に沿うファンド形成のほか、重点的な施策として①地域コミュニティを活性化する「クリエイティブIターン」、②アート NPO の活動支援、③高齢者による若手アーティスト支援、を目的とするファンドを設け、コーディネート事業と連動して推進する。
- 当ファンドを活用する個別のアートプロジェクトに対する寄付を促進するため、2015 年に開設した寄付サイト「かるふぁん！」の情報発信力を高めるとともに、マッチング機能を強化して、支援者と結びつけていく。特定公益増進法人である協議会への寄付が税制優遇の対象になることを周知するセミナーの開催や、毎月の「メセナよろず相談日」での説明、企業への提案などを積極的に進めていく。
- 助成制度は「2021Arts Fund」を主軸に運営していくが、引き続き、申請主体が臨時組織で活動が小規模な場合は「助成認定制度」にて対応していく。
- 個々の活動について審査会で検討するに際しては、丁寧な事前調査を行うとともに、認定後の活動に対するフォローを強化する。本制度が各活動の公益性を担保することから、その根拠と実態について十分に把握する。

#### [2021Arts Fund/助成認定制度 実施要領]

申請受付:年4回(1月20日、4月20日、7月20日、10月20日)、審査会:年4回開催

審査委員長:近藤誠一(前・文化庁長官、外務省参与)

参考:2015/1/1~11/30	採択件数	寄付件数	寄付金額
2021Arts Fund	21 件	488 件	2 億 9,139 万円
助成認定制度	75 件	490 件	1 億 9,189 万円

## ■GBFund の今後の展開に向けた検証

- 2011 年 3 月に設立した GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)は、第一期を2016年12月までと定めており、現在、これまでの制度運営や助成の成果等について検証作業に取り組んでいる。助成団体へのアンケートを行うとともに、検証作業チームを発足させ、ヒアリング調査と現地視察等を行い、レポート作成と報告会を開催する。これら検証作業を踏まえたうえで、今後の運営方針を定めていく。
- GBFund に対する寄付および活動申請件数が減少していることから、プログラム・オフィサーによる調査を強化し、重点的な支援対象を選定していくなど、効果的な運営を行う。
- 2016 年度中に「百祭復興」を達成すべく、祭り、郷土芸能への支援を充実させていく。

[ファンド目標額] 200,000,000 円

[寄付総額] 149,824,321 円 (2015/11/19 現在)

[助成総額] 147,159,924 円 (2015/12/22 見込)

[助成活動件数] 250 件

[選考委員]

片山正夫(セゾン文化財団常務理事)、加藤種男(企業メセナ協議会専務理事)、  
俵木悟(成城大学文芸学部文化史学科准教授)、

船曳建夫(東京大学大学院総合文化研究科教授、文化人類学者)、

吉本光宏(ニッセイ基礎研究所主席研究員・芸術文化プロジェクト室長)

[検証作業チーム]

リーダー: 大澤寅雄(ニッセイ基礎研究所社会研究部芸術文化プロジェクト室准主任研究員)

小岩秀太郎(全日本郷土芸能協会事務局次長)、ほか公募によるメンバー3名



東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド



## ■WEB システムによる効率的・効果的な運営

- 2014 年より WEB システムを導入し、オンラインでの申請・寄付等の仕組みを整えてきたが、申請者および寄付者のいずれにおいてもアクセスしやすく、使いやすいシステムに改良を重ねる。あわせて、協議会公式サイトとの連動性を強化し、寄付サイト「かるふあん！」へのアクセシビリティを高めて支援者の関心を集め、採択活動に対する寄付増加につなげていく。

## 【発信】

「メセナ＝芸術文化振興による社会創造」を広く周知することを目的とする。メセナに関わるさまざまな情報を収集・公開し、専門機関としての考察と分析を加え、多様な媒体で国内外に広く発信することにより、企業メセナの多彩な価値を発信する。企業をはじめとするさまざまなセクターとの議論や連携の発信を行うとともに、民間のネットワーク組織として、時節を捉えたメッセージの発表や文化政策についての提言等を行い、文化振興に関する世論を喚起する。

### ■WEB・SNSの効果的な活用により、内外への情報発信を強化

- 2014-15年にリニューアルした日・英WEBサイトのコンテンツを充実させ、情報の内容や発信先に応じて使い勝手を検討しながら有効に活用していく。トップページでは会員企業のメセナ活動を「アート&カルチャー」として週替りで更新・紹介するほか、メセナ認定「This is MECENAT」のアーカイブページや寄付サイト「かるふあん！」とも連動し、メセナのポータルサイトとしての機能を強化していく。
- FacebookやTwitterなどSNSを活用し、企業メセナおよび協議会活動について日常的な情報発信を行う。事務局スタッフが訪れた会員企業のメセナ活動など、速やかにレポートする。
- 協議会事業や会員企業の活動を案内するメールマガジンを毎週配信する。会員はじめ、一般の読者を開拓し、タイムリーに情報を届ける。
- 在日海外機関を含め、国内外に向けたバイリンガル発信は、英語サイトやメールニュース、プレスリリース、Facebookなどで行い、相互の交流の促進と調査研究等の深化につなげる。

### ■戦略的・重点的な情報発信の展開

- 「Creative Archipelago(創造列島)」を重点的な発信事項として、情報や内容を集約したウェブページを作成する。コーディネート事業やThis is MECENAT、2021Arts Fundなどの事業間連携を見据えながら、戦略的かつ効果的に情報を発信していく。
- 「Creative Archipelago(創造列島)」を推進していくうえでも、協議会内外の課題を集約して、文化による社会創造のための政策提言を発表する。
- メディアに対しては、事業ごとのプレスリリース配信のほか、年に1~2回を目標に記者懇談会および記者発表会を開催することで、記者と顔の見える関係を構築する。会員企業担当者の参加場面も増やし、企業による取り組み紹介も行う。
- リリース配信の際には、その都度内容に合わせてターゲット記者・メディアを絞り、広報戦略を立てる。配信先の新規開拓や分析も都度実施する。
- 協議会設立25周年を機に、昨年度より制作に取り組んでいる記念出版については、日本の企業メセナの実績を掘り下げ、理解を深める内容の書籍として充実に励んでおり、2016年度内に発行することを目指す。
- 掲載記事のデジタルアーカイブ化を進め、協議会全体でより効果的に活用できるようにする。

## II. 組織運営

### 1. 総会

会員が一堂に会し協議会の事業・運営について合意形成をはかるとともに、会員相互に交流する機会と捉えて、芸術文化振興に関する情報提供と、メセナ推進についての意見交換ができる場となるよう努める。[2016年3月開催]

### 2. 理事会

中期経営計画(2016.1.~2020.12)に掲げたミッションに照らし、協議会の事業推進と組織拡大に努める。[通常理事会:2月、12月/ほか臨時理事会]

### 3. 役員会

理事を中心に、名誉理事・評議員・顧問を含めた役員合同会議を行うなど、協議会運営について幅広く指導を仰ぎ、あわせて情報の共有をはかる機会とする。[年1回以上開催]

### 4. 運営企画委員会

各部会・ワーキンググループ・プロジェクトチームの事業展開について共有・協議し、理事会への提案を行うとともに、芸術・文化振興に関する諸課題について実質的な議論を行う。[年4回程度開催]

### 5. 部会・ワーキンググループ、プロジェクトチーム

部会・ワーキンググループは各事業の方向性や制度設計等について議論し、事務局の実務の遂行に対してアドバイスを行う。

- 調査研究部会 :メセナ活動実態調査および事例研究等の推進
- 認定顕彰部会 :認定制度「This is MECENAT」顕彰事業「メセナアワード」の運営
- 交流部会 :内外の文化機関との交流、文化振興プラットフォームの形成促進
- 情報発信部会 :WEBはじめ各種媒体による多彩な情報発信の推進
- 会員ネットワーキンググループ:会員相互のネットワーク形成に資する活動を展開
- Creative Archipelago プロジェクトチーム  
:2020年に向け、全国各地で民間主導の文化プログラムを推進

### 6. 事務局

企業メセナの専門家として、事務局スタッフの調査能力と企画提案力を高め、「プログラム・オフィサー」としてさまざまなコーディネートの実務を遂行する。

### Ⅲ. 年間スケジュール

月	事業	ガバナンス
1月	◇新入会員 1st ミーティング ◇賀詞交歓会	
2月		●通常理事会 ○記者懇談会
3月	◇ジャカルタ調査&フォーラム ☆TIM 募集 ◆助成審査会 ■調査報告会 ◇メセナ美術部	●社員総会
4月		◎運営企画委員会
5月	■メセナアソシエイト募集 ◆GBFund 選考委員会 ◆GBFund 検証報告会 ◇KMK ASEAN 東京会議 ★TIM⇒メセナアワード締切	
6月	☆TIM 審査会 ■調査アンケート開始 ◆助成審査会	◎運営企画委員会 ○25周年記念本発行
7月	◇メセナ美術部	
8月	◇マレーシア調査&フォーラム	◎運営企画委員会
9月	◆助成審査会 ★メセナアワード選考会、受賞活動決定 ◇メセナフォーラム	
10月	★メセナアワード受賞活動発表 ○記者発表会 ◇会員交流会	
11月	■調査結果発表、事例研究報告 ◆GBFund 選考委員会 ◇会員ネットワーク勉強会 ☆メセナアワード贈呈式	◎運営企画委員会
12月	◆助成審査会	●通常理事会

以上

(2015.12.2.作成)